

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 31 日現在

機関番号： 14301
 研究種目： 基盤研究（B）
 研究期間： 平成 22 年度 ～ 平成 24 年度
 課題番号： 22320005
 研究課題名（和文） 日本近代哲学の特質と意義、およびその発信の可能性

研究課題名（英文） Characteristics and significance of the modern Japanese philosophy and its transmission toward the world

研究代表者 藤田正勝 (FUJITA MASAKATSU)
 京都大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号： 90165390

研究成果の概要（和文）：

本研究では、明治以降、西洋哲学を受容しながら形成されてきた日本近代哲学の特質およびその意義を、東アジア諸国の哲学との比較を通してそれを浮き彫りにし、その可能性を検討すること、そして日本の哲学がこれまで積みあげてきた諸成果を海外に向けて発信することを試みた。

東アジア諸国の哲学との比較を通して、日本近代哲学の特質や可能性を明らかにするために、まず 2012 年 1 月に台湾中央研究院において台湾・香港の研究者とともに、また同年 5 月には韓国の研究者と韓国・江原大学において、さらに同年 9 月には、中国の研究者とともに北京外国語大学において国際シンポジウムを開催した。

これらを通して、日本の哲学を東アジアの研究者に紹介し、その特質、さらにはその現代的な意義について共同で議論をすることができたとし、その成果をそれぞれの国で一部はすでに出版し、残りは出版の予定である。

研究成果の概要（英文）：

We have tried to clarify characteristics and significance of modern Japanese philosophy, which was formed since the era of Meiji by accepting the Western philosophy, in comparison with the philosophy of other East Asian countries. We have attempted also to transmit the productive results of the Japanese philosophy toward the world.

To this end, we have held international symposiums at Academia Sinica in Taiwan (January 2012), at Kangwon National University in Korea (March 2012) and at Beijing Foreign Studies University (September 2012). We could introduce by these symposiums the East Asian researchers to the modern Japanese philosophy and discuss its characteristics and contemporary importance with them. The results of researches and discussions in Korea are already publicly-available and other results will come into the world at some point in the near future.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 22年度 | 5,500,000 | 1,650,000 | 7,150,000 |
| 23年度 | 4,400,000 | 1,320,000 | 5,720,000 |
| 24年度 | 3,500,000 | 1,050,000 | 4,550,000 |

| | | | |
|----|------------|-----------|------------|
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 13,400,000 | 4,020,000 | 17,420,000 |

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 哲学 哲学・倫理学

キーワード： 日本近代哲学、西洋哲学、東アジア、比較思想、西田幾多郎、間文化

1. 研究開始当初の背景

研究代表者（藤田正勝）は、科学研究費補助金により、平成16年から18年にかけて「两大戦間に日欧の相互交流が日本哲学の形成・発展に与えた影響をめぐって」というテーマで、また平成19年から21年にかけて「西洋哲学との比較という視座から見た日本哲学の特徴およびその可能性について」というテーマで共同研究を主宰した。

これらの研究の成果を引き継ぎつつ、さらにそれを、東アジア諸国の西洋哲学の受容と形成のプロセスと対比することによって検証するとともに、日本近代哲学の成果をいっそう発展させ、また発信していく必要があるという認識を持つに至り、本研究を立案するに至った。

2. 研究の目的

本研究が目ざすのは、明治以降、西洋哲学を受容しながら形成されてきた日本近代哲学の特質およびその意義がどこにあるのかを明らかにすることである。とくに、それぞれの伝統に依拠して独自の仕方では西洋哲学を受容してきた東アジア諸国の哲学との比較を通してそれを浮き彫りにし、それが現代においてどのような可能性をもつのかを検討したい。さらに、それが世界の哲学的な議論の場においてどのような貢献をなすのか、その可能性を問いたい。

3. 研究の方法

明治以来、日本の哲学者たちが形成してきた哲学の特質を、西洋哲学との対比においてだけでなく、日本と同様に西洋哲学を受容しながら、しかしその伝統に依拠して独自の思想形成を行った中国や台湾、韓国の哲学との比較を通して浮き彫りにすることを試みる。海外の研究協力者の協力を

得て、シンポジウムや研究会を開催し、その討議のなかでそれぞれの哲学の意義や可能性を明らかにしたい。また、その討議や対話を実りあるものにするために、日本の哲学者の著作やそれに関する研究書を翻訳し、海外に向けて発信し、ことを計画している。

4. 研究成果

本研究が目ざしたのは、明治以降、西洋哲学を受容しながら形成されてきた日本近代哲学の特質およびその意義がどこにあるのかを明らかにすること、そしてとくに、それぞれの伝統に依拠して独自の仕方では西洋哲学を受容してきた東アジア諸国の哲学との比較を通してそれを浮き彫りにし、その可能性を検討すること、そして日本の哲学がこれまで積みあげてきた諸成果を海外に向けて発信することであった。

東アジア諸国の哲学との比較を通して、日本近代哲学の特質や可能性を明らかにするためには、海外の研究者を交えた議論が必須である。そのために、まず2012年1月に台湾中央研究院において台湾・香港の研究者とともに「間文化的視野のもとでの東アジア哲学」国際学術検討会を開催した。また5月には韓国の研究者と韓国・江原大学において「東アジアにおける西洋哲学受容の問題——日韓人文学の対話の深化を求めて——」というテーマで国際シンポジウムを開催した。さらに9月には、

中国の研究者とともに北京外国語大学において「東アジアにおける哲学の形成と思想間の対話」というテーマで国際シンポジウムを開催した。

これらを通して、日本の哲学を東アジアの研究者に紹介し、その特質、さらにはその現代的な意義について共同で議論をすることができた。その成果は、韓国でのシンポジウムについては、すでに韓国において出版されているし、台湾、中国でのシンポジウムの成果も順次公にされる予定である。

これらの活動を通して、国際的な規模での日本哲学研究のネットワーク化の基礎を築くという本研究の意図は十分に達成できたと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 41件)

藤田正勝 日本如何接受「哲学」? 『外国哲学』(中国人民大学書報資料中心) 査読無 2012年第6期、2012年 pp.56-62

藤田正勝 文化の交差という視点から見た日本哲学 『厦門大学「東アジアと日本学」国際シンポジウム・要旨集』 査読無 2012年 pp.16-22

藤田正勝 「田辺元の生涯と思想——田辺元先生没後五十年を記念して——」 『求真』査読無、第19号 2012年 pp.1-14

岡田勝明 「フィヒテとシェリングにおける「同一性 (Identitaet)」と「異他性 (Andersheit)」」、『フィヒテ研究』、査読なし、第20号、2012年、31~43 ページ。

岡田勝明 「西田幾多郎における表現の論理」、『姫路獨協大学 外国語学部 紀要』、第26号、査読なし、2013年3月、101~115

ページ。

岡田勝明 「「事」と「自」——西谷啓治における己事究明」、『理想』、第689号、査読なし、2012年、98~113 ページ。

小浜善信 「九鬼哲学の根本問題—偶然論、押韻論、時間論—」、『神戸市外国語大学研究年報』 XLVIII、査読なし、2012年、23~70 頁

加藤泰史 「近代日本におけるカント哲学受容——和辻哲郎のカント批判とその現代的意義」 李光来・藤田正勝編『西洋哲学の受容と変容』 ソウル・景仁文化社 (Kyung-in Publishing) 査読なし、2012年、161-174 ページ

高坂史朗 「西田幾多郎『日本文化の問題』をめぐって」、近畿大学日本文化研究所編『否定と肯定の文脈』風媒社、 査読なし、2013年 262-279 ページ

清水正之 具体的普遍と特殊の間—和辻哲郎と比較思想、査読有り、第40号、2013年、9-15 頁。

平子友長 昭和思想史におけるマルクス問題—『ドイツ・イデオロギー』と三木清—、李光来・藤田正勝編『西洋哲学の受容と変容』 ソウル・景仁文化社、査読なし、2012年、pp.207-226

田中久文 「和辻倫理学における西洋哲学の受容」、李光来・藤田正勝編『西洋哲学の受容と変容』ソウル・景仁文化社、査読なし、2012年、175-194 ページ

平田俊博 「カント哲学と日本の教育の目的」 李光来・藤田正勝編『西洋哲学の受容と変容』ソウル・景仁文化社、査読なし、2012年、137-160 ページ

嶺秀樹 「西田幾多郎の「場所」の思想」 李光来・藤田正勝編『西洋哲学の受容と変容』ソウル・景仁文化社、査読なし、2012年、195-208 ページ

美濃部仁 「火は火を焼かない」—西谷啓治における「空」と「回互」—、『理想』、査読無、689号、2012年、87-97ページ
その他26件

〔学会発表〕(計 49件)

藤田正勝 「田辺元の生涯と思想——田辺元先生没後五十年を記念して——」、西田・田辺記念講演会 12.6.2 京都大学文学研究科

藤田正勝 「文化の交差という視点から見た日本哲学」 厦門大学日語文学科設立40周年記念「東亜と日本学」国際学術検討会 12.7.3 中国・厦門大学外文学院

藤田正勝 「田辺元の生涯と思想——田辺元先生没後五十年を記念して——」、求真会平成24年度研究発表会 2012/8/23 群馬大学北軽井沢研修所

藤田正勝 「思想間の「対話」とは何か」国際シンポジウム「東アジアにおける哲学の形成と思想間の対話」 2012.9.15 北京日本学研究中心

上原麻有子 "Une relecture de l'Ecole de Kyoto sous l'aspect de la philosophie de la traduction", Histoire de la Traduction en Asie de l'Est(ワークショップ)、2012年5月19日、明星大学

上原麻有子 「西田幾多郎の身体論から女性の顔についての考察へ」、西田哲学会第10回年次大会、2012年7月22日、京都産業大学

上原麻有子 「田辺元の『ヴァレリイの藝術哲学』再読—翻訳哲学的に言語化すること」、土井道子京都哲学基金主催シンポジウム「日本語で考える—言葉と日本思想—」 2012年9月11日、京都ガーデンパレス

岡田勝明 Fichtes Konzeption des Ich als reiner Taetigkeit und ihre Bedeutung fur die neuzeitliche Theorie der Subjektivitaet、国際フィヒテ学会、2012年9月20日、イタリ

ア・ボローニャ大

高坂史朗 「東アジアと哲学—1930年代の対立と相互作用—」国際シンポジウム「東アジアにおける哲学の形成と思想間の対話」 2012年9月15日 北京日本学研究中心

清水正之 具体的普遍と特殊—和辻哲郎と比較思想、比較思想学会、2012年6月24日、お茶の水女子大学

平子友長 「マルクスのマウラー研究の射程—MEGA IV/18におけるマルクスのマウラー抜粋の考察—」、「清華大学マルクス・エンゲルス文献研究センター設立式典」招待講演、2012年11月9日 清華大学人文学院

田中久文 「和辻哲郎における間文化性」、比較思想学会、2012年6月23日、お茶の水女子大学

田中久文 「日本哲学の可能性—京都学派に学ぶ—」、筑波大学哲学・思想学会、2012年11月3日、筑波大学

平田俊博 「日本語のちからと日本哲学」、比較文明学会第30回学術大会&地球システム・倫理学会第8回学術大会、2012年11月18日 京都大学稲盛財団記念館

美濃部仁 茶と禅の接点—『南方録』を手がかりに—、禅茶文化交流大会、2012年10月18日、韓国仏教歴史文化記念館(ソウル、韓国)

美濃部仁 Die Negation des Wissens bei Fichte und Jacobi、VIII. Kongress der Internationalen J.G.Fichte-Gesellschaft (第8回国際フィヒテ協会大会)、2012年9月21日、ボローニャ大学(イタリア)

美濃部仁 「火は火を焼かない」—西谷啓治における「空」と「回互」— 国際シンポジウム「東アジアにおける哲学の形成と思想間の対話」 2012年9月15日 北京外国語大学(中国)
その他32件

〔図書〕(計 8件)

藤田正勝 岩波書店『西田幾多郎の思索世界——純粹経験から世界認識へ』2011年、298ページ

藤田正勝 中国・河北人民出版社『西田幾多郎的現代思想』2011年、218ページ

藤田正勝・編 京都大学学術出版会『『善の研究』の百年——世界へ/世界から』2011年、406ページ

藤田正勝 岩波書店 『哲学のヒント』2012年 201ページ

李光来・藤田正勝編 ソウル・景仁文化社 (Kyung-in Publishing) 『西洋哲学の受容と変容』 2012年 429頁

岡田勝明 世界思想社『自己を生きるカ——読書と哲学』2011年、236ページ

小浜善信 神戸市外国語大学外国学研究所 『永遠回帰の思想——九鬼周造の時間論——』、2012年、225頁

嶺秀樹 西田哲学と田辺哲学の対決——場所の論理と弁証法 ミネルヴァ書房、2012年、370頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤田正勝 (FUJITA MASAKATSU)
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：90165390

(2) 研究分担者

上原麻有子 (UEHARA MAYUKO)
明星大学・人文学部・准教授
研究者番号：40465390
岡田 勝明 (OKADA KATSUAKI)
姫路獨協大学・外国語学部・教授
研究者番号：00203985
小浜 善信 (OBAMA YOSHINOBU)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：10124869
加藤 泰史 (KATO YASUSHI)
南山大学・外国語学部・教授
研究者番号：90183780
高坂 史朗 (KOSAKA SHIRO)
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：20170178
清水 正之 (SHIMIZU MASAYUKI)
聖学院大学・人文学部・教授
研究者番号：60162715
平子 友長 (TAIRAKO TOMONAGA)
一橋大学・社会学研究科・教授
研究者番号：50126364
田中 久文 (TANAKA KYUBUN)
日本女子大学・人間社会学部・教授
研究者番号：30197412
平田 俊博 (HIRATA TOSHIHIRO)
山形大学・地域教育文化学部・名誉教授
研究者番号：60113974
嶺 秀樹 (MINE HIEKI)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：30181960
美濃部 仁 (MINBE HITOSHI)
明治大学・国際日本学部・教授
研究者番号：50328960

(3) 連携研究者

片山 洋之介 (KATAYAMA YONOSUKE)
茨城大学・名誉教授
研究者番号：10007750